

赤江 公民館だより

赤江地区民 みんなの合言葉

- 気持ちのよい あいさつを交わしましょう
- ごみを拾って きれいな町にしましょう
- 青少年の非行を防ぎましょう

赤江交流センター発行 TEL・FAX(0854)28 - 8982
メールアドレス akae.cs@city.yasugi.shimane.jp

No.158 令和6年6月号

館長のよもやま話



今年、我が家の農業は、越前から水が来るのが早いということで、ハウスの苺の片づけ、田んぼの代かき、田植えと集中し大変でしたが、何とか終わることができました。見渡すと赤江の田植えもほぼ終わったようです。

さて、交流センター事業の報告を、いつものように手帳を見て思い出しながらつづりたいと思います。

5月15日(水)、『赤江地区健康会議総会』を各自治会の健康委員さんに集まっていたき行いました。平日の夕刻でしたが、多くの皆さんに出席いただきました。昨年度の決算、事業報告や今年度の予算や事業計画の説明をしました。総会后、金藤内科小児科医院の金藤健太郎先生から「こころの健康づくり」と題して講演いただきました。特に、働いてる方にとっては、とても貴重なお話だったと思いました。少しでも内容をお話すると、ストレスはみんなが感じるもの、それから回復することが大切、上手く解消できないと精神負担につながる。「寝る」「食べる」時間を意識して規則的な生活をする、他人と「つながる」ために会話は質より量、外に出ること、そして、無理せず人生を楽しむことができる生活が大切だと、というようなお話をいただきました。多くの時間、家に閉じ込めないで交流センターの事業に参加してもらえればと勝手に思いました。そして、「ちょっとしんどいな」と思われたら、相談されたらと思います。



「健康会議総会」の様

20日(月)、『めだかクラブの開講式』を行いました。下校時間が予定より早くなったことを数日前に聞き少し慌てましたが、急遽レクリエーションインストラクターの門協さんに無理を言い、対応してもらいました。50名を超える子どもたちを飽きさせずに、楽しい時間を作っていただきました。真に感謝。

22日(水)、めだかクラブで4年生以上を対象に行っている『夏休みの川遊び』を今年は思い切って、少し遠い、鳥取県船上山少年自然の家付近の『谷川探検』を計画しており、そのための事前打合せに主事と出かけました。この日は、時間の都合で現場を見に行けませんでした。開催までには、そのコースをたどってみたいと思っています。良き夏休みの思い出づくりとなるような企画にしたいと思います。

23日(木)、安来高校の企画で二年生を対象に行われている『トークフォークダンス』という企画に参加しました。「地域探求」の授業の一環で、地元の方に対して自分の思いを三分間程度で順に話し、地元の方からの意見を聞くという企画でした。驚いたことに地元の方が70名ほど参加しておられ、皆さん熱心にお話しておられました。



24日(金)、4月号でも紹介しましたが、交流センターには20の『主催教室』があり、その教室代表者による連絡会を行いました。全ての教室の活動内容を見てはいませんが、参加されている皆さん楽しく活動されているようです。冒頭にお伝えした、金藤先生の話の中の「人との会話を楽しむ良い機会」となるように思います。少しでも興味のある方は交流センターまでご連絡ください。また、こんなことをやってみたいと思われる方がおられれば、ご相談ください。連絡会の後半、「消費者トラブル」と題して安来市消費者センターの方からのお話を聞きました。マスコミによると、この島根でも被害に遭遇されている方もあるようです。全国で65才以上の方の被害支出額平均が、42.6万円とのこと。電話があっても、金銭に関する内容は自分だけで判断せず、誰かに話すことが大切とのことでした。



やっと6月になり1日(土)、赤江小学校の『運動会』が今年から春に行われるとのことで、少し見に出かけました。今、児童数は市内で十神

小学校に次いで多い234人のようですが、昔に比べて随分少なくなったと感じました。それでも児童だけで運動会が成立していることを思うと、喜ばなければならぬかも知れません。子どもたちがみんな、各競技に一

生懸命取り組んでいる姿を見るとうれしい限りです。当日、当センターでは、『ちよつこと喫茶』も開店し賑わっていました。

3日(月)、赤江小学校運動会の代休日にめだかクラブ『田植え』を行いました。代休日のため参加者は少ないと予想していましたが42名が参加し、寿朗会とボランティアの皆さんのご協力のお陰で行うことができました。去年から、昔我が家で使っていた、通称「空中田植え」(羽子板の羽根のように苗を育て、できた苗を田んぼにばらまくという方法)で育てた苗を植えています。それは、小学生の低学年にとって苗を2~3本に分けることが難しいという私にとって2年の体験を活かした結果です。自己満足ですが、みんな協力しながら田植えをすることができました。4日後の7日(金)、三年生の授業として『田植え実習』を行いました。地域のボランティアの方の他、小学校の先生や最大の助っ人5・6年生2名も直接田んぼに入って協力してくれ、とてもスムーズに、無事、全部を植えることができました。あとは、収穫の喜び『秋の稲刈り』を行って、小学校がどうされるのか未定ですが、昨年のように餅を作り収穫の喜びを感じてもらえればと思っています。



「めだかクラブ田植え」の様子

5日(水)、『比婆山ハイキング』を開催し、16名の方に参加してもらいました。2日前が雨だったため、行路の状況が心配で、前日、一人で歩いてみました。少し湿っていましたが落ち葉の滑りも少なく、当日は参加した皆さん、怪我もなく終えることができました。ご案内いただいた方によると、広島の比婆山より、歴史的にも価値が高いとのこと、ちょっときついところもありますが、一度は奥の院までご参拝されたいと思います。最後に、元採石場であった、井尻の「柱状節理」を見学しました。今は、私有地のようなのですが、持ち主の方のご厚意で近くまで見に行くことができました。私も何度かその前を通ったことがあり、普通の採石場だと思っていましたが、あの有名な兵庫県の「玄武洞」と同じものだとお聞きし感銘を受けました。なぜか日本海沿いの日御崎、東尋坊などにも大規模にみられるとのこと、一見の価値はあり



「比婆山ハイキング」の様子

ます。そうそう、参加された方の一人が、登る途中、「ハイキングとチラシに書いてあったので参加したが、これは山登りだ」と嘆いておられました。交流センターに帰って、お別れの時、「是非、来年も参加してください」と言うとうなづいていただきました。

8日(土)、青少年健全育成協議会主催の『笹巻づくり』を行いました。今年は、家族での参加を呼びかけ、11家族と児童のみ2名が参加され、皆さんとても熱心に取り組まれました。子どもたちの多くも、私以上に上手に仕上げることができました。



「笹巻づくり」の様子

前日にはボランティアの方に、笹をそいだりというような準備をしていただき、感謝の限りです。笹巻も作るのには手間暇かかって、食べれば後はゴミとなるようなものですが、こうした伝統的なことを残していくのも交流センターの役割かと思いました。残った笹をお分けし、帰って作ってみたいとのことうれしい限りです。私は、どうも、皆さんのされた本巻き?は習得できませんが、翌日、広瀬の山に笹を取りに行き、我が屋のやり方で孫たちと一緒に作りました。以前にも書いたように思いますが、我が国の文化の中に、葉の中に餅を入れるという風習があります。そうそう八幡さんのお祭りの時にも茅に包んだものをいただきました。また、たたら(正式にはサルトリババラ)や関東ではカシワの葉に包んだり、朴(ほう)の葉を利用したり、今はあまり見なくなりましたが、氏神さんにツバキなどの葉に赤飯を入れたものを供えたのを見た記憶しています。こうした風習も忘れつつあるように思います。

今回は、色々例年以上にばたばとしており皆さんに十分お伝え出来なかったように思います。私にとって我が家の収入を伴う農業もしばらくお休みで、暇つぶしの家庭菜園に使う時間の確保ができそうです。

おしらせ

◇7月の行事予定

- 1日(月) ちょこっと喫茶
- 1日(月) めだかクラブ(1年生～3年生)『たなばた会』
- 21日(日) あかえマルシェ(詳しくは今月の回覧をご覧ください)
- 28日(日) 飯梨川土手一斉清掃

昭和の懐かしいレコードを聴きながらちょこっとおしゃべり。お待ちしております。

